



月報だよりの原稿は毎月20日締切、翌月に発行の「天文月報」に掲載いたします。校正をお願いしておりますので、締切日よりなるべく早めにお申込みください。

e-mailで toukou@geppou.asj.or.jp宛。

なお、原稿も必ずFaxで0422-31-5487までお送りください。

人事公募

標準書式：なるべく、以下の項目に従ってご投稿ください。結果は必ずお知らせください。

1. 募集人員（ポスト・人数など）、2. (1) 所属部門・所属講座、(2) 勤務地、3. 専門分野、4. 職務内容・担当科目、5. (1) 着任時期、(2) 任期、6. 応募資格、7. 提出書類、8. 応募締切・受付期間、9. (1) 提出先、(2) 問合せ先、10. 応募上の注意、11. その他（待遇など）

鹿児島大学大学院理工学研究科物理・宇宙専攻教員

1. 准教授 1名
2. (1) 理工学研究科物理・宇宙専攻・宇宙情報大講座
(2) 鹿児島市
3. 天文学・宇宙物理学、惑星科学など広い意味での宇宙科学
4. 鹿児島大学大学院理工学研究科物理・宇宙専攻および理学部物理科学科では、国立天文台と協力して運営するVERAと6m電波望遠鏡、1m光赤外線望遠鏡などの観測装置を用いた銀河宇宙物理学をはじめ、理論宇宙物理学、人工衛星を用いた大気科学や電波天文学など、広く宇宙にかかわる教育・研究を行っています。着任後は、当専攻の教員と協力して、物理・宇宙専攻および物理科学科における教育・研究を積極的に推進する方を求めます。また、大学運営や共通教育（他学部学生も含む基礎教育、教養教育）にも携わっていただきます。
5. (1) 2013年12月1日以降なるべく早い時期
(2) なし（定年は65歳）
6. 次の条件をすべて満たす方
(1) 博士の学位を有すること。
(2) 国籍は問いませんが、日本語での教育や大学運営に支障がない方。
7. (1) 履歴書（写真貼付）、(2) これまでの研究内

容概要、(3) これまでの教育活動概要、(4) 業績一覧：下記の分類ごとに、筆署名・題名・発表年・掲載誌・巻・ページを記載してください。

- i. 査読付き原著論文
- ii. 著書
- iii. 国際シンポジウム等の集録（査読付きの場合はその旨を記載）
- iv. 最近5カ年の国際研究集会での発表（招待講演の場合はその旨を記載）
- (5) 過去10年間の競争的資金獲得状況、(6) 研究計画、(7) 教育についての抱負、(8) 主要論文別刷5編以内（コピー可）、(9) 応募者に関して問い合わせのできる方、2名の氏名と連絡先（メールアドレス含む）、もしくは推薦書

8. 2013年7月16日(火) 17時必着
9. (1) 〒890-0065 鹿児島市郡元1-21-35 鹿児島大学大学院理工学研究科物理・宇宙専攻教員選考委員会委員長 西尾正則
(2) 西尾正則
e-mail: mxnishio@sci.kagoshima-u.ac.jp
Tel: 099-285-6047
10. 封筒に「物理・宇宙専攻教員応募書類」と朱書きし、簡易書留相当でお送りください。選考の過程において面接を行う場合があります。その際の旅費については、応募者側の負担とさせていただきます。
11. 鹿児島大学の以下のページに詳細を掲載していますので、ご確認ください。
<http://www.kagoshima-u.ac.jp/about/130321koubo.pdf>

人事公募結果

1. 掲載号
2. 結果（前所属）
3. 着任時期

国立天文台研究教育職員（ハワイ観測所）

1. 2012年8月（第105巻第8号）
2. 美濃和陽典（ハワイ観測所サポートアストロノ

マー)

3. 2013年1月1日

新分野創成センターイメージングサイエンス 研究分野 特任研究員

1. 2013年2月(第106巻第2号)
2. 適任者なし

平成25年度国立天文台プロジェクト研究員 (年俸制特任研究員)

○野辺山宇宙電波観測所

1. 2012年11月(第105巻第11号)以下すべて共通
2. 竹腰達哉
3. 2013年4月1日

○ハワイ観測所

2. K. G. Helminiak
3. 2013年9月15日
2. Sherry C. C. Yeh
3. 2013年7月1日着任

○チリ観測所

2. Cinthya N. Herrera
3. 2013年5月1日
2. James O. Chibueze
3. 2013年4月1日
2. Yiping Ao
3. 2013年6月1日
2. 三浦理絵
3. 2013年4月1日

○ひので科学プロジェクト

2. Patrick Antolin
3. 2013年9月1日

○重力波プロジェクト

2. Daniel Friedrich
3. 2013年9月1日
2. Fabián E. Peña Arellano
3. 2013年5月1日

○TMT推進室

該当者なし

○天文データセンター

2. 吉田鉄生
3. 2013年4月1日

○先端技術センター

2. 成影典之
3. 2013年9月30日

東京大学大学院理学系研究科天文学専攻教員

1. 2013年3月(第106巻第3号)
2. 川中宣太(へブライ大学)
3. 2013年5月1日

賞の推薦

(財)井上科学振興財団 第30回井上學術賞・ 研究奨励賞などの受賞候補者

2013年度(財)井上科学振興財団は井上學術賞、研究奨励賞などの受賞候補者の募集をしております。

1. 概要: 自然科学の基礎的研究で特に顕著な業績を上げた50歳未満の研究者に対し、學術賞(賞状および金メダル、副賞200万円)を贈呈する。
2. 募集方法: 指定の関係34学会、および財団の役員・評議員等からの推薦。
3. 日本天文学会からの推薦件数: 2件
4. 推薦締切日: 2013年8月20日(火) 日本天文学会事務所必着
5. 天文学会への推薦に必要な申込用紙は下記財団のホームページにあります。

ほかに井上研究奨励賞(9月20日締切)、井上リサーチアワード(7月31日締切)こちらは井上科学振興財団へ直接応募となっております。

◎照会先: 公益財団法人 井上科学振興財団

〒150-0036 東京都渋谷区南平台町15-15
南平台今井ビル601

ホームページ: <http://www.inoue-zaidan.or.jp/>

Tel: 03-3477-2738 Fax: 03-3477-2747

e-mail: inoue01@inoue-zaidan.or.jp

研究助成

藤原セミナーの募集 (2014年～2015年開催)

趣旨

藤原科学財団は、科学技術の振興に寄与することを目的として、セミナーの開催を希望する科学者に対し開催に必要な経費を援助いたします。

1. 対象分野：自然科学の全分野
2. 応募資格：わが国の大学等学術研究機関に所属する常勤の研究者
3. 開催件数：2件以内
4. セミナーの要件：
 - (1) テーマは自然科学の全分野で、学問的に水準の高いものであること。
 - (2) (2) セミナー開催対象期間は、2014年1月～2015年12月末日
 - (3) 参加者は、50～100人程度とし、外国人研究者が参加者の5分の1程度含まれること。
 - (4) セミナー経費援助額は1件につき12,000千円以内であること。
5. 申請受付期間：2013年（平成25年）4月1日～同年7月31日（必着）
6. 申請の方法：所属機関長を經由して「藤原セミナー開催申請書」を提出すること。
7. 申請書提出先・連絡先：

〒104-0061 東京都中央区銀座3-7-12
 公益財団法人 藤原科学財団
 Tel: (03)-3561-7736 Fax: (03)-3561-7860
 藤原科学財団ホームページ
<http://www.fujizai.or.jp>

*なおホームページ上にも開催申請書のwordファイルとPDFファイルが掲載されています。

**公益財団法人宇宙科学振興会助成事業 2件
公募のご案内**

公益財団法人 宇宙科学振興会

公益財団法人宇宙科学振興会は宇宙科学分野における学術振興を目指し、2013年度も引き続き下記の助成事業を行います。それぞれの応募要項の詳細は当財団のホームページ：<http://www.spss.or.jp> にございます。それぞれの公募に対する応募申請に際してはホームページご参照の上、申請書をダウンロード・作成いただき必要な書類を添付の上、財団宛に電子メール (admin@spss.or.jp) で申請いただけます。奮って

ご応募いただくようご案内申し上げます。

なお、2014年度より国際学会出席旅費に対する応募回数、適用期間を変更するために、今年度は国際学会出席旅費に対する各応募締め切りの適用期間が不規則になっておりますのでご注意ください。

(1) 国際学会出席旅費の支援

●支援対象

宇宙理学（地上観測を除く）および宇宙工学（宇宙航空工学を含む）に関する独創的・先端的な研究活動を行っている若手研究者（当該年度4月2日で35歳以下）、またはシニアの研究者（当該年度4月2日で63歳以上かつ定年退職した者）で、国際研究集会で論文発表または主要な役割などが原則として確定している者。

●助成金額・件数：1件あたり10～25万円程度、年間10件程度

●申込み受付時期

- 応募締切り 2013年5月15日：2013年7月1日～2013年10月末日の間の発行者 対象
- 応募締切り 2013年9月15日：2013年11月1日～2014年3月末日の間の発行者 対象
- 応募締切り 2014年1月15日：2014年4月1日～2014年9月末日の間の発行者 対象

(2) 国際学会開催の支援

●助成対象

宇宙科学研究を推進している国内の学術団体（研究所、大学等）で、宇宙理学（地上観測を除く）および宇宙工学（宇宙航空工学を含む）に関する国際学会、国際研究集会の国内開催を主催しようとする団体。

●助成金額・件数：1件あたり30～50万円程度、年間3～5件程度

●申込み受付時期

- 応募締切り 2013年7月15日：2013年10月1日～2014年3月末日に開催の国際学会 対象
- 応募締切り 2014年1月15日：2014年4月1日～2013年9月末日に開催の国際学会 対象

●照会先

公益財団法人 宇宙科学振興会事務局
<http://www.spss.or.jp>
 〒252-5210 神奈川県相模原市中央区由野台3-1-1
 e-mail: admin@spss.or.jp
 Tel: 042-751-1126

公益財団法人住友財団 2013 年度 2 件の 研究助成

基礎科学研究助成

助成の趣旨：科学の進歩は社会の発展に大きな貢献を果たしてきました。科学は人類社会の未来を拓くことにつながるものです。この助成は、重要でありながら研究資金が不十分とされている基礎科学研究、とりわけ新しい発想が期待される若手研究者による萌芽的な研究に対する支援を行うものです。

研究課題：理学（数学、物理学、化学、生物学）の各分野およびこれらの複数にまたがる分野の基礎研究で萌芽的なもの（それぞれの分野における工学の基礎となるものを含む。）

応募資格：「若手研究者」

助成金額：総額1億7,000万円（1件あたり最大500万円）

助成件数：90件程度

助成期間：2013年11月から1年間

ただし、希望される場合は6カ月間を限度として延長可

募集期間：2013年4月15日(月)～6月28日(金)

※ e-mail の締切は6月20日(木) となっております。ご注意ください。

応募方法：財団ホームページ（本ページ最下部 URL）から申請書をダウンロードし必要事項を記入の上、e-mail と郵送の両方でお送りください。

採否決定：2013年10月上旬の予定

環境研究助成

助成の趣旨：現在、人類が直面している大きな問題の一つに環境問題があります。

地球温暖化、オゾン層破壊、酸性雨、生物種の減少、食料と人口、砂漠化、公害等さまざまな問題があり、その原因の探究と解決策の模索が続けられています。

この助成は、環境問題の解決のためには、多面的アプローチによる分析とさまざまな対応策の構築が必要と考え、そのためのいろいろな観点（人文科学・社会科学・自然科学）からの研究に対する支援を行うものです。

研究課題：①一般研究…環境に関する研究（分野は問

いません。）

②課題研究…「持続可能な社会への着実な転換を可能にする方策に関する研究」

応募資格：研究者の所属が営利企業（兼務を含む）の場合には応募不可

助成金額：①一般研究…9,000万円（1件あたり最大500万円）

②課題研究…2,000万円（1件あたり最大1,000万円）

助成件数：①一般研究…50件程度

②課題研究…2件を予定

助成期間：①一般研究…2013年11月から1年間

ただし、希望される場合には6カ月間を限度として延長可

②課題研究…2013年11月から2年間

募集期間：2013年4月15日(月)～6月28日(金)

※ e-mail の締切は6月20日(木) となっております。ご注意ください。

応募方法：財団ホームページ（本ページ最下部 URL）から申請書をダウンロードし必要事項を記入の上、e-mail と郵送の両方でお送りください。

採否決定：2013年10月上旬の予定

連絡先：〒105-0012 東京都港区芝大門1-12-16

住友芝大門ビル2号館

公益財団法人 住友財団

Tel: 03-5473-0161

Fax: 03-5473-8471

e-mail: sumitomo-found@msj.biglobe.ne.jp

URL: <http://www.sumitomo.or.jp/>

研究会・集会案内

国立天文台野辺山宇宙電波観測所 「電波天文観測実習」の参加者募集

国立天文台野辺山宇宙電波観測所では、45 m 電波望遠鏡を使った「電波天文観測実習」を行います（総合研究大学院大学「夏の体験入学」）。当観測所は、45 m 望遠鏡、10 m サブミリ波望遠鏡（南米チリ）を用いて多数の星間分子の発見、原始惑星系ガス円盤の検出、銀河中心にある巨大質量ブラックホールの発見など数多くの重要な研究成果を上げています。この「電波天文観測実習」は、天文学に関心をもつ大学生の皆さんに研究の最前線で活躍中の45 m 望遠鏡を

使った観測実習を通して、電波天文学の実際に触れていただくのがねらいです。参加者には普段研究者が行っている45m望遠鏡の操作、データ取得・解析、結果のまとめをしていただきます。特に専門知識は必要ありませんが、大学で物理実験を経験していることが望ましいです。関心をお持ちの多くの方のご応募をお待ちしています。

1. 開催日程：2013年9月17日(火) 13:30～
9月21日(土) 11:30 (4泊5日)
2. 場 所：国立天文台野辺山宇宙電波観測所
(JR小海線野辺山駅から徒歩40分)
3. 定 員：8名程度
4. 対 象：大学の理科系学部（教育学部の理科系も含む）に属する学生（1～4年生）
5. 費 用：旅費・滞在費がサポートされる可能性があります。
6. 応募方法：住所、氏名（ふりがな）、所属大学および学部・学科、学年、年齢、性別、電話番号、e-mailアドレス（もっている場合）を明記の上、以下の(1)～(4)に回答し、7月29日(月)必着で下記の応募先まで送付してください。
なお、送付された資料は返送いたしません。
 - (1) 大学で物理実験の経験がありますか？
 - (2) (1)で「はい」と回答された場合、一番印象に残った実験は何ですか？ どのよう点で印象に残ったのですか？
 - (3) あなたがもっている天文学への想い・イメージについて何でも結構ですのでお書きください（600字以内）
 - (4) 実習に参加希望の理由は何ですか？（600字以内）
7. 選考結果：8月5日頃、郵便で発送
※6の住所以外への発送を希望する場合は発送先を明記のこと
8. 応募先・お問合せ先：
〒384-1305 長野県南佐久郡南牧村野辺山462-2
国立天文台野辺山宇宙電波観測所「観測実習係」
※封筒には「観測実習応募書類在中」と朱書してください。
Tel: 0267-98-4332
ウェブサイト：
<http://www.nro.nao.ac.jp/~nro45mrt/misc/45school.html>

会 務 案 内

日本天文学会 2013 春季年会報告

2013年春季年会は、3月20日(水)から23日(土)の3日間、埼玉大学(埼玉県・さいたま市)にて口頭講演会場9、ポスター会場1を使って開催された。講演件数は口頭講演が459件、ポスター講演が219件で、ポストデッドラインペーパー1件を含め、合計679件の講演があった。年会参加者は972名であった。ジュニアセッションの参加者は464名であった。また、以下に報告するように、通常セッションに加え2件の企画セッションも開催された。開催地理事の田代 信氏のほか、埼玉大学の大朝由美子氏、寺田幸功氏をはじめとしたスタッフ・学生の皆さんのご尽力により、順調に進行した。

座長は次頁の53名の方々に務めていただいた。会場・時間帯別にお名前を示し、感謝の意を表する(敬称略)

〈記者会見〉

春季年会の前日、3月19日(火)15:30から、埼玉県庁・埼玉県政記者クラブにて行われた。山田 亨副理事長からの挨拶と日本天文学会春季年会の簡単な紹介の後、各講演者から以下のトピックスについて解説が行われた。報道機関7社の出席があった。

○研究発表

- (1) 天の川銀河中心の超巨大ブラックホールに2013年夏に最接近し輝きを増すガス雲について
記者会見出席者：斎藤貴之(東京工業大学)ほか
関連する講演番号：B07a, B06a, B08a
- (2) ペンシルロケットの発掘と鑑定
記者会見出席者：阪本成一(宇宙航空研究開発機構)ほか
関連する講演番号：J34a, J35a

〈特別セッション報告〉

「ASTRO-H特別セッション」

世話人：嶺重 慎(京都大学)

ASTRO-H特別セッションは、年会1日目の3月20日15:00から約1時間半、J会場で開催された。最初に、高橋忠幸プロジェクトマネージャーから、ASTRO-H衛星の目的、概要、進捗状況、国際協力など

	3月20日(水)	3月21日(木)		3月22日(金)		3月22日(土)
	13:00-15:00	10:00-12:00	14:00-16:00	10:00-12:00	14:00-16:00	10:00-12:00
A会場	柴田一成 (京都大学)	Kap-Sung Kim (Kyung Hee Univ.)	小原隆博 (東北大学)	浅井 歩 (京都大学)	梅田秀之 (東京大学)	川端弘治 (広島大学)
B会場	千葉証司 (東北大学)	柏川伸成 (国立天文台)	梅村雅之 (筑波大学)	谷口義明 (愛媛大学)	和田桂一 (鹿児島大学)	長尾 透 (京都大学)
C会場	亀谷和久 (東京理科大学)	米倉覚則 (茨城大学)	百瀬宗武 (茨城大学)	玄田英典 (東京大学)	河原 創 (東京大学)	武藤恭之 (工学院大学)
D会場	亀谷 収 (国立天文台)	藤原智子 (九州大学)	永井 誠 (筑波大学)	田中孝明 (京都大学)	鶴 剛 (京都大学)	酒向重行 (東京大学)
E会場	大橋隆哉 (首都大学東京)	小野寺幸子 (明星大学)	金田英宏 (名古屋大学)	日影千秋 (名古屋大学)	井上開輝 (近畿大学)	小松信義 (金沢大学)
F会場	市川 隆 (東北大学)	小林行泰 (国立天文台)	坂尾太郎 (ISAS/JAXA)	河合誠之 (東京工業大学)	平賀純子 (東京大学)	
G会場	茂山俊和 (東京大学)	山下卓也 (国立天文台)	前澤裕之 (大阪府立大学)	中島 拓 (名古屋大学)	小麥真也 (国立天文台)	石垣 剛 (岩手大学)
H会場	小林 浩 (名古屋大学)	米徳大輔 (金沢大学)	高橋弘充 (広島大学)	海老沢 研 (ISAS/JAXA)	川口俊宏 (山口大学)	寺澤敏夫 (東京大学)
I会場	田中康之 (広島大学)	青木賢太郎 (国立天文台)	土居明広 (ISAS/JAXA)	一本 潔 (京都大学)	勝川行雄 (国立天文台)	野澤 恵 (茨城大学)

について、全般的な報告があった。ASTRO-Hは超精密分光、硬X線撮像、幅広いエネルギー帯域の3点において画期的な衛星であり、打ち上げは2015年に予定されていること、他のX線観測衛星や他波長の観測装置との連携が大事であること、開発においてはチャレンジングな要素も多いが、多くのメンバーの協力のもと順調に進められていることなどが報告された。

次いで、サイエンス・アドバイザーの Andy Fabian 英国ケンブリッジ大学教授から、ブラックホールがテーマの講演があった。ブラックホールのごく近傍、数倍のシュバルツシルド半径のコンパクトな領域から放射される硬X線が、ブラックホールの周りのガス円盤を照らしてさまざまなスペクトル成分や時間変動を産み出すこと、また円盤からは高速で高温ガスが噴き出していること、そのようなブラックホールの周囲のガスがもつダイナミカルな側面が、ASTRO-H衛星により明らかにされることが、力強く紹介された。

最後に、サイエンス・オフィス・チェアの Richard Mushotzky 米国メリーランド大学教授から、銀河団がテーマの講演があった。銀河団の構造(質量分布)や進化、いつ、どこでどのように銀河団内の元素が作られたか、銀河団内の天体によるフィードバックは銀河団構造にどのような影響を与えたかといった基本課題の解明に、ASTRO-H衛星が威力を発揮するであろう

ことがわかりやすく紹介された。

参加者は概数200名、会場は立ち見ができるほどの盛況で、始終、熱気に包まれていた。ASTRO-H衛星に寄せる熱い期待が分野を越えて伝わってきて、大いに盛り上がったセッションであった。

(嶺重 慎)

「ALMA 特別セッション」

世話人: 伊王野大介

ALMA 特別セッションは、年会3日目の3月22日16:00から約1時間半、K会場で開催され、約250名の参加者があった。最初に、チリ観測所の井口 聖氏(東アジアALMA プロジェクトマネージャー、国立天文台教授)からALMAの進捗報告があり、50台以上のアンテナが5,000 mサイトに設置されていることが述べられた。また、日本が建設を担当するACAアンテナや受信機の現状報告がされた。その他、3月13日に行われたALMA開所式の様子や、論文の出版状況についての報告があった。次に、立松健一氏(東アジアALMA地域センターマネージャー、国立天文台教授)より、最初の共同利用(Cycle 0)の統計が紹介され、次回共同利用のCycle 2で公開される観測モードについての説明があった。その後、松田有一氏(国立天文台助教)より、遠方宇宙に関するALMAの初

期科学成果の紹介があった。他のミリ波・サブミリ波望遠鏡では一晩以上かかるような難しい観測であっても、ALMAを使えば数分の観測でより高い感度が得られることが強調された。最後に、武藤恭之氏（工学院大学助教）から、ALMAを使った原始惑星系円盤の観測についての講演があった。ALMAの高い分解能と分光性能を活かして、円盤周辺ガスの運動やスパイラル構造を観測することが提案された。

前回同様講演室は立ち見ができるほど盛況であった。年齢、分野とも広い範囲の方が参加してくださり、ALMA共同利用観測への意欲と期待が強く感じられ、たいへん有意義な会となった。

(伊王野大介)

〈企画セッション〉

【宇宙天気と宇宙気候】

企画セッション「ASJ-KAS Joint Session on Space Weather and Space Climate (和名：日韓合同セッション・宇宙天気と宇宙気候)」は、年会1日目午後から3日目の午前にかけてA会場にて開催された。この企画セッションは、日本天文学会の国際協力活動の一つとしての日韓合同セッションである（経緯については、平成24年1月28日日本天文学会評議委員会議事録を参照）。

日本天文学会会長の櫻井 隆氏による挨拶に始まり、昨今急激に発展している宇宙天気研究および宇宙気候研究の最前線について、全部で41件もの講演があり、韓国を中心に中国・アメリカなど海外からの参加者も10名を数え、活発な議論が展開された。各国での宇宙天気研究の取り組みについて報告があった他、宇宙天気現象の擾乱源として重要な太陽面爆発（太陽フレア）の最新の研究紹介、また最近ホットな話題となっている極端宇宙天気現象についての講演などがあった。加えて、「宇宙気候」として、太陽の長期変動と地球気候・宇宙環境変動についての講演もあった。今回の企画セッションではどの時間帯でもおよそ70名の聴衆があり、質疑応答も活発に交わされ、たいへん盛況のうちに進行された。

(浅井 歩)

【超巨大ブラックホールの起源】

本企画セッション「超巨大ブラックホールの起源」は、昨今の超巨大ブラックホール研究に対する関心の高まりや観測理論双方における研究の進展を踏まえ、関連研究者が一堂に会して意見交換を行うことを目的として企画された。依頼した9件の基調講演・招待講演に加え、tennetなどにサーキュラーを配信して講演

を募ったところ、29件の多くの講演が申し込まれた。セッションは年会2日目の午後から4日目の午前にかけてB会場にて行われ、立ち見が出るほどの多くの方々（80名程度）が参加するという盛況なものとなった。講演は、理論家から多様な数値シミュレーションによる最近の研究の進展についての多くの報告があり、観測の立場からは電波からエックス線までさまざまな手法による超巨大ブラックホールの起源に迫るための試みが報告された。講演内容は、たいへんレベルの高いものばかりであった。なお本企画セッションの大きな特色として、セッションの最後に総合討論のための論点整理および議論を行うための講演を設けたことが挙げられる。この総合討論にて、超巨大ブラックホールの起源に迫るために、今後どういったアプローチによる研究が必要になるのか、また観測と理論の間でどういった協力を進める必要があるのかといった具体的な議論が活発に行われた。これを踏まえ、超巨大ブラックホールの研究者が情報交換を継続的に行うための仕組み作りについても提案が行われた。以上を踏まえ、本企画セッションが当該分野における今後の大きなブレイクスルーにつながるキックオフとしての役割を果たせたかと考えている。

(梅村雅之)

〈天文教育フォーラム〉

天文教育普及研究会との共催で、2013年3月20日（水・祝）の16:30より18:00まで、J会場にて「天文学は社会をリードできるか？—過去に学び、現在を把握し、未来を展望する—」をテーマに行われた。3名の方の話題提供と会場からの質疑により、活発な議論が進められた。

話題提供では、まず帝京平成大学の中村 士さんから「歴史のなかの天文学の役割」というタイトルで、歴史的な天文学の役割や一般に対するアプローチなどを、具体例を交えながら紹介いただいた。そのうえで、天文学の役割に対する全体的な理解や関心の低下について指摘され、天文学が直接・間接と社会の中で果たしている意味を理解できるようにしていくことの必要性が指摘された。つづいて京都大学の嶺重 慎さんから、「現代社会における天文学の役割（?）」と題して、現状と将来の方向性について紹介いただいた。一般市民の関心の高さとサイエンスコミュニケーション活動で天文分野がリードしている点を指摘され、天文教育普及研究会における活動から具体例を紹介された。一方で、そのノウハウの共有が不十分であること、日本独自の活動を国際的に発信していくことの必要性が提言された。法政大学の岡村定矩さんからは、

「人は宇宙から活力をもらえるか？」をテーマに、宇宙への憧れと畏怖・自らのルーツを知る・世界観を形成する・知的好奇心を満たす、といった人間として得られる活力や意義の面と、現在IAUで進められている戦略プランでの「発展途上国のための天文学」で、工業と技術・文化と社会・科学と研究、という面において、持続的な社会の発展に天文学が寄与することからの取り組みがなされていることから、大きな意味をもつことが紹介された。最後に高梨直紘さんの進行で、話題提供の3名と会場の参加者での議論が行われた。天文教育から、大きな視点をもつことが可能となり、宗教や文化、経済を超えての価値観の共有が可能となること、途上国などへの協力を進めることの必要性、国内においてもより天文学を知りたい要求に応えられる体制が必要であること、など多くの意見が出された。

(安藤享平)

〈研究奨励賞・林 忠四郎賞受賞記念講演〉

年会2日目、教育学部C棟C1講義室にて17:30から1時間30分間、2012年度研究奨励賞・林 忠四郎賞受賞記念講演が行われた。講演者およびタイトルは以下のとおりである。

研究奨励賞受賞記念講演

坂井南美氏（東京大学）「低質量原始星天体における暖かい炭素鎖化学の提唱とその進展」

田中賢幸氏（東京大学）「遠方銀河団の銀河種族とAGN」

細川隆史氏（東京大学）「銀河系・初期宇宙での大質量星形成」

林 忠四郎賞受賞者講演

松原隆彦氏（名古屋大学）「精密宇宙論の光と影」

各講演では、受賞者の皆さんのこれまでの研究成果や進展、今後の研究の方向性について、わかりやすく解説していただいた。会場は200名を超える盛況ぶりであった。

〈懇親会〉

懇親会は3日目の3月22日(金)に、埼玉大学内の大学会館で開催した。参加者数は、事前予約166名(一般106, 学生60)、当日申込の参加者は27名(一般12, 学生15)、開催地側から30名の合計約223名の参加であった。会は、田代開催地理事の進行で始まり、埼玉大学副学長・研究国際担当理事の山口弘樹教授から歓迎のことばに続いて、櫻井 隆会長からのご

挨拶と乾杯の発声により懇親会が始まった。今回は、埼玉各地の銘酒、秩父のワインとそば、川越の地ビールなどを集め、好評であった。最後に埼玉大学の学部を卒業し次回開催地である東北大学の大学院を修了された亀谷 収氏から埼玉大、東北大のご紹介があり、最後に次回開催地理事兼任である山田 亨副会長から仙台の地での学会の参加への呼びかけがあつて、散会となった。

(田代 信, 寺田幸功, 大朝由美子)

〈保育室〉

保育室は埼玉大学総合研究棟セミナー室を使用した。5家族子ども6名の利用があつた。準備にあたり埼玉大学スタッフの方々にご協力いただいたことを感謝する。

(峰崎岳夫, 中道晶香)

〈ジュニアセッション〉

第15回ジュニアセッションを、天文教育普及研究会、高校生天体観測ネットワークとの共催で開催した。口頭とポスターでの発表62件とポスターのみの発表19件、合計81件の発表があつた。第14回に続いて、タイから高校生6名が来日して6件の発表を行った。

発表は、2012年5月の金環日食に関係した18件を含めてたいへん多岐にわたり、九つのセッション(宇宙開発、銀河・星雲・星団、恒星・変光星、タイ、金環日食1、金環日食2、太陽・金星、太陽系、夜空の明るさ)に分けられた。口頭発表は、3月23日の午前・午後に行われたが、発表件数の多さから、1件あたりの発表時間は発表交代の時間を含めて4分(タイの発表のみ6分)と短くせざるをえなかった。ポスターセッションは、午前中のセッション終了後から始まり、公式には13時からの60分間で行われた。ジュニアセッションへの参加受付は464名で、研究者も加えると500名以上の参加者があつた。

司会は、午前は阪本成一氏(宇宙航空研究開発機構)と殿村洋文氏(星野高等学校)、午後は相馬 充氏(国立天文台)と直井雅文氏(埼玉県立浦和高等学校)に務めていただいた。また、マイク係として、埼玉県立蕨高等学校・埼玉県立春日部女高等学校の生徒の皆さんにお手伝いいただいた。なお3月24日には、高校生天体観測ネットワーク全国フォーラムの中でジュニアセッション交流会を催していただいた。これらすべての催しに対し、開催地および運営に携わった多くの方々に多大なご協力をいただいたことに、改めて感謝の意を表する。

なお今回は、口頭発表時間枠をはるかにオーバーする発表申込みがあり、やむをえず、一部をポスターのみの発表へ変更するのをお願いをした。また口頭発表の会場を最大の会場に変更したにもかかわらず、多数の立ち見が出る状態であった。2000年春に17件の発表から始まったジュニアセッションも、ここまで大きくなり、いろいろな問題点が見えてきた。今回の実施直後に行ったアンケートなどを踏まえながら、今後の運営形態の検討をしたいと考えている。

(大西浩次)

〈公開講演会〉

公開講演会は、年会研究セッションの翌日の3月24日(日) 13:30-17:15に埼玉大学全学講義棟1-301教室にて、「埼玉発天行地上と宇宙をつなぐ天文学の歴史」というテーマで行われた。小中学生から70代の方まで約220名に及ぶ熱心な来場者に恵まれた。

大朝由美子天文教育委員の司会により、櫻井 隆会長の挨拶に続き、3名の講師による講演が行われた。最初は、東京大学の牧島一夫氏による「宇宙空間から宇宙を見る」と題した講演で、埼玉県和光市に本拠地をもつ理化学研究所の紹介や数々の人工衛星や宇宙ステーション搭載装置MAXIなどを使って宇宙空間から見えてきたブラックホールの姿などのわかりやすい話があった次に、広島大学の川端弘治氏による「さい

たまから、そしてハワイから宇宙を見る」と題した講演で、埼玉県秩父地方にある旧国立天文台堂平観測所(現 堂平天文台星と緑の創造センター)からハワイのすばる望遠鏡、そして次世代超大型望遠鏡(TMT)へと日本における光赤外線天文学の進展や、そこから見えてきた宇宙の描像についての詳しい紹介がされた。つづいて、東京大学の河野孝太郎氏による「南米アタカマから宇宙を見る」と題した講演で、南米チリのアタカマ砂漠でサブミリ波観測を開始したアルマ電波望遠鏡の仕組みや最新画像とともに、宇宙における古代史の謎についての興味深い解説があった。最後に、講演者全員に壇上に上がっていただき、来場者からの質問に答えるパネルディスカッションを行った。

いずれの講演に対しても質疑応答が活発に行われ、特に年少者の質問が印象的であった。今回もアンケートを実施し、127件の回答を得た。アンケートは今後も継続して実施し、今後の宣伝方法やプログラム編成の参考としたい。なお、本企画は、埼玉大学、埼玉大学科学教育センター CST事務局、埼玉県教育委員会、さいたま市教育委員会、さいたま市桜区、朝日新聞社、さいたま総局、テレビ埼玉、FMNACK5、ビクセン、誠文堂新光社天文ガイドの後援で実施された。

(大朝由美子)

(年会実行委員長: 宮田隆志)

天文月報オンライン/投稿用アップローダーのIDとパスワード

ID: asj 2005

パスワード: 雑誌コード(5桁の数字と) **vol98**(5文字)の計10文字を入力してください。「雑誌コード」とは印刷版の月報の裏表紙の右下に書かれている「雑誌○○○○○一▲」の○○○○○の部分です。○○○○○は各号共通の数字です。

青木和光(編集長), 市来浄與, 大栗真宗, 勝川行雄, 富永 望, 平松正顕, 廣田朋也, 馬場 彩, 前野将太, 町田正博, 吉田二美

平成25年5月20日

発行人 〒181-8588 東京都三鷹市大沢2-21-1 国立天文台内

公益社団法人 日本天文学会

印刷発行

印刷所 〒169-0075 東京都新宿区高田馬場3-8-8

株式会社 国際文献社

定価700円(本体667円)

発行所 〒181-8588 東京都三鷹市大沢2-21-1 国立天文台内

公益社団法人 日本天文学会

Tel: 0422-31-1359 (事務所) / 0422-31-5488 (月報) Fax: 0422-31-5487 振替口座 00160-1-13595

日本天文学会のウェブサイト <http://www.asj.or.jp/> 月報編集 e-mail: toukou@geppou.asj.or.jp

会費には天文月報購読料が含まれます。

©公益社団法人日本天文学会2013年(本誌掲載記事は無断転載を禁じます)